

ひと駅で
8
篇読める



車窓のまぼろし

旅行かばんに文庫本の1冊もしのばせて、
車窓風景と交互に楽しむと、旅の奥行きが
さらに深まるということがあります。

鉄道を舞台にした名作も数知れず。まし
てやかつて鉄道交通の最重要拠点のひとつ
だった下関駅をめぐるエピソード、海と山
との風景が七変化する一帯の沿線風景は、
旅情と郷愁と想像力をもトリプルにかき立
ててくれます。そこにミステリアスな気分
が漂ってくれば、もうあなたは鉄道文学作
品の登場人物か、もしやそれをあなたが今
書いている作家なのではないでしょうか？
これは下関での鉄道旅行に着想を得た、
『083』オリジナルの超ショートノベル
です。ひと駅分の時間でひと息にどうぞ。

下関発 超ショートノベル

作 福田章
イラスト 永田純子